

活発な「熟議」が行われました 第2回全体会（11月9日）

11月9日（水）18：30より、矢吹町役場大会議室において矢吹町学校運営協議会第2回全体会が開催されました。今年度も、前半は今年度のテーマに基づく部会の枠を超えた「熟議」、後半は各部会に戻って「熟議」が行われました。

今年度は、委員の方々に学校に足を運び、園児・児童・生徒の活動等を実際に参観したり、運動会などの行事に参加したりすることができたこともあって、「熟議」開始と同時に活発な意見交換等が行われました。特に、具体的なアクションが行われている部会への質問等が多く出され、有効と思われる取組について共有化を図っていこうとする積極的な話し合いが行われました。

前半の「熟議」を受けて、後半の部会では、今年度のまとめを意識しながら、それぞれの課題解決のための「熟議」が行われました。

また、今年度より本格始動した「矢吹町地域学校協働活動事業」の推進員を兼務されている土門巧委員より、これまでのコーディネート活動を振り返っての発表がありました。当初は、何をどうしたらよいか悩んだが、役を通して学んだことや、子どもたちと顔見知りになったことで、あいさつを交わし合う関係になれたことが大きな収穫だったということでした。





佐久間邦友委員より「学校教育ボランティアを活用する際の学校の負担感を軽減するためには」について、お話がありました。

負担感は必ずあるものだが、軽減するためには、①その手間はなぜやるのかを考えること、②「これまでのつながり」と「これからのつながり」について、③徐々に慣れていくこと、④トラブルが起こることとは、人が動いている証拠。

CSは「考える・決める」、協働本部は「手足」の機能を持つ。手足が動いて生じた問題をCSで議論すれば、「熟議」も深まるというアドバイスを頂きました。